

## 資本主義は社会主義に必ず変わる

### 『空想より科学へ社会主義の発展』に学ぶ

## 第5回 東京ブロック

# 今こそ、社会発展の法則を学ぶとき

はじめに

司会Ⅱ 前回は天才が現れれば社会が変わるのか? 「天才的個人」とは、何を

さしているのか? 偉大な3人の空想的社会主義者の限界を学んできました。

今回は、前回の復習を行ないながら、再度、整理していきたいと思います。

当時の時代背景と社会状況について、もう一度、FKさんから説明をお願いします。

FKⅡ これまで学んできたように、フランス革命はブルジョア革命であった、ということ。だから、王国の封建

国家からブルジョア民主主義国家に変わり、私的所有権は王侯貴族からブルジョアの所有権に変わったに過ぎなかったということ。それを、マルクスとエンゲルスは

『共産党宣言』(1848年)では「封建社会の没落から生まれた近代ブルジョア社会は、階級対立を廃止しな

かった。この社会はただ、あたらしい階級を、圧制のあたらしい条件を、闘争のあたらしい形態を、古いものとお

きかえたりすぎない」と提起しています。マルクスとエンゲルスは、すでにこの時、『資本論』第一巻を書き上げ

ていたし、社会の発展法則を見出していました。当時の社会主義者の多くは、「理性」や「正義」に訴えていたにすぎなかった、と言っています。

司会Ⅱ それはなぜですか。

NOⅡ 先ず訳者の大内兵衛さんが、

「訳者序」の中で、「マルクシズムを知っていると自信を持つ人にとっては、それがどの程度の理解であるのかをかんたんに計量する秤として、本書はなかなか軽便である」とマルクシズムを理解するうえで指針を述べています。前回は大分討論したはずですが結論が先送りされていました。



19世紀のプロレタリアート

TKⅡ偉大なる社会主義者として、サン・シモン、シャルル・フーリエ、ロバート・オーウエンの3人が載っていますが、彼らは、「空想的社会主義者」の代表例です。その当時は、もつと社会主義を語ったり、中には社会転覆の実践に踏み込んだ社会主義者は多くい

ました。何か欠けていたために、思想的にも実践的にも失敗しました。

MⅡこの本で登場するデューリングもその内の一人でした。しかし、ここで

大切なことは、マルクスやエンゲルスは、この偉大な空想的社会主義者から何を学んだのかということではないでしょうか。

みなさんも頭の奥に記憶されていると思いますが、エンゲルスは「この二大発見、すなわち唯物史観と、剰余価値による資本主義的生産の秘密の暴露とは、われわれがマルクスに負うところである。社会主義はこの発見によって一つの科学となった」と言っています。唯物史観が何よりも勝れているのは、社会を変える(実践を含め)主体が労働者階級(プロレタリアート)であり、次の社会主義へ導く、歴史的任務であることを、強く求めています。

もうひとつの剰余価値の発見Ⅱ搾取のしくみについては前年の『賃労働と資本』の学習でも出てきましたのでわかりですね。今回の『空想より科学へ』では、社会主義は思想であるという書き出しに敬意を持って、私たちの

思考方法が「科学的」に探究することを強く求めているのです。

さて、唯物史観の立場で考えると、「天才的個人」がマルクスやエンゲルスのことでないことは明らかでしょう。マルクスは資本主義の発展の中に必然的にプロレタリアートの成長を見据え、これが社会変革の担い手であることをハッキリさせました。

しかし、偉大な3人の空想的社会主義者に共通していた弱点は、プロレタリア階級の利害の代表者として登場したのではないということ。かれらは、まずプロレタリア階級を解放しようとせず、全人類を開放しようとしたのです。理性と永遠の正義の王国を実現しようとしたわけです。前回も議論されていますが、「5百年」前に、この王国を実現しようとする天才的個人が欠けていたが、この天才的個人が誕生し、真理を認識するに至り、永遠の理性国家を追求する革命が誕生した。しかし、

誕生したのは、永遠の理性とは矛盾するブルジョアジーの国家でしかなかったのです。天才的個人が世界を動かすのではなく、社会発展の法則性＝唯物史観を正しく学ばねばなりません。原始共産制、奴隸制、封建制、資本主義、社会主義という階級闘争によって社会は発展してきたという歴史法則を学ぶことです。そうでないと『二国志』や『明治維新』にもみられる優れた個人の輩出が社会を変えていくという誤った考えに陥ります。

司会Ⅱ一つのポイントはそこですね。マルクスが学んだことは何だったのでしょうか？ 討論を進めてください。UⅡマルクス主義の三つの源泉は、「哲学」「経済学」「社会主義」と言われています。後に詳しくやると思いますが、偉大なる3人の空想的社会主義者からⅡフランスの社会主義運動からは、理性や正義に訴えても社会主義実現はあり得ないことを学ぶと同時に、

哲学や経済学を同時に学び、自然の発展法則を発見し、社会の発展法則までをマルクスとエンゲルスはすでに解明していたということですか。

FKⅡそうですね。NOさんの発言があった前出の通り、本書（岩波文庫63頁）で「この二大発見・・・」を説明しています。それが唯物史観と剰余価値の発見とエンゲルスが明言しています。

### 見いだせなかった空想家

司会Ⅱでは、なぜ、マルクスやエンゲルス以外の人たちは、それを見出すことができなかったか？ ここも大事なところだと思います。どなたか自由に意見を教えてください。

SKⅡイギリスのピュリタン革命は、1642〜49年で、世界初の資本主義国になります。そのイギリスでは、ワットが蒸気機関を発明し、アークラ

イトが水力紡機を発明するなど、1700年代中頃から産業革命が起こり、マニユファクチャアから大工場へと変化し、労働者が大工場へ多く集められた。以前は、少数の熟練労働者でものを生産していたのが、大工場に未熟練労働者が大量に集められて働かされるように変化し、プロレタリア（労働者）も組織され鍛えられてきた。しかし、大陸のフランスやドイツではようやくブルジュア革命が起きたばかりで、プロレタリアは存在していたが、近代的プロレタリアートの未発達な状態であった。だからこそ、次の革命の担い手であるプロレタリアートの存在を空想的社会主義者は捉えることができなかつたと本書（34頁）にかけてエンゲルスが提起しています。

司会Ⅱ他に、意見はありませんか？ TKⅡ資本主義的生産が未熟であったために、階級の地位も未熟であったから、それに呼応して理論もまた未熟で



ピューリタン革命（ネイズビーの戦い）

あつた、ということですね。  
社会問題の解決方法もまた未発展の経済的諸関係のうちにかくれていたから、それも頭で作り出すしかなかったのです。

GOII経済諸関係が土台であるために、その経済諸関係が未熟であると上部構造である階級心理もまた未熟であり、社会主義を頭の中で無理やりに考え、

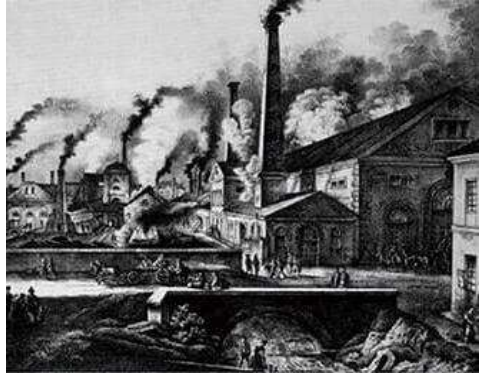
方策を立てたということですか？

UIIそうではありません。かれらの社会主義とは、絶対的真理、「理性と正義」の表現であり、時間や空間はもとより、人間の歴史的發展とも無関係なものであり、それがいつどこで発見されるかは単なる偶然であつた。だから、絶対的真理、理性と正義は、各派の提唱者によつてそれぞれ違つている。できあがつてくるのは、一種の折衷的な平等社会主義になる。当時のフランスやイギリスにおける社会主義運動家の精神や物のとらえ方を支配していた社会主義は、空想的社会主義であつた。「こういふ社会主義を一つの科学とするためには、まずもつて、それを現実の地盤の上になすえねばならない」と、この章を締めくくつてゐるわけですね。

TKII質問したのはWさんですが分か

りましたか？  
WII皆さんの討論で大分わかりました。フランス革命はブルジョア革命であり、封建制度がブルジョア民主主義国家に変わった。イギリスは産業革命が起こり、大工場で資本主義的生産様式が主流になり、プロレタリアートも組織されてきていたが、大陸のフランスやドイツは遅れて資本主義的経済諸関係になつたために、経済諸関係も階級の地位も未熟であり、貧富の差がどこから発生するかわからず、「人間は平等であるべきだ」との啓蒙主義者同様に、社会主義も頭の中に描いたものとなつた。だから、空想的社会主義とならざるを得ませんでした。

社会主義を一つの科学とするためには、「唯物史観」といふ社会発展の法則と、「剰余価値」による、資本主義的生産の秘密の暴露II搾取の仕組を発見して、マルクスが初めて科学としたのだと、エンゲルスは提起していると



産業革命期の工場

思います。このことが私の理解を深めてくれました。

司会Ⅱ皆さんの討論でWさんの疑問も解けましたね。他に質問や疑問はありますか。

日常生活での社会保障制度はどうなんでしょう？

SKⅡ私は、ロバート・オーウエンの

偉業はものすごいと思います。他の工場では14時間以上働かせていた時に彼は10時間半に一举に短縮し、綿花恐慌の時に4カ月休業した時も、労働者に賃金を全額払った。また、厚生施設の幼稚園や図書館を作った。それでも、巨額の利得が生まれることを知りました。

また、その利得は労働者が生産した物の一部であり、機械その他、労働者の手で富を作り出す一切の手段は、働くものたちの共有財産であると考えて実行しました。今日の福利厚生施設などは、ロバート・オーウエンの功績です。しかし、儲け第一主義の資本主義社会で、利益を労働者に還元すべき！一切の富を労働者の共有財産にすべき！と唱え実施する経営者（資本）は、他との競争で打ち負かされて、廃業に追い込まれていくのはわかります。だからオーウエンは、資本家を説得しても相手にされず、アメリカで

の共産主義コロニーの実験は失敗したのです。

TKⅡ今の日本の政治でも同じです。安倍の理性に期待してもだめなのです。安倍政権の経済政策の目玉であるアベノミクスの失敗を覆い隠すがごとく、安倍首相は経団連の新年交歓会で、「賃上げを要請してきた」いわゆる「官製春闘」である。昨年まで5年間は、大企業の正社員については2%、3%近くの賃上げをしてきた。しかし、今年はずいに前年割れの企業が多く出ています。まさに、資本の論理が実に貫徹されているのがわかります。安倍の理性に期待してもダメです。ましてや、その安倍のお蔭で賃上げができているなどとのまやかしに騙されている日本の労働者はどうなっているんだろうね。

MⅡ今年も、統一自治体選挙と夏の参議院選挙があります。年収2000万円以下のワーキングプアが2000万人



を超えて、就業人口の3割〜4割近く  
になっていと言われています。

今や生産性は高度化し、ものは多く  
生産され多く有り余るほどあります。  
労働者は商品の作り手であると同時に、  
商品の消費者でもあります。その消費  
者である労働者の実質賃金が下がる一  
方では、経済循環は下降するのは当然  
のことです。そんなことは、資本は百  
も承知です。しかし、経団連の会合で  
は、「うちは賃上げしないが、あなた  
の所が賃上げすればうちは助かる。賃  
上げてくれ」と、お互いなすり合っ

ているだけです。それで、もうけにも  
うけた企業内部留保金は、504兆円  
にたっしている。そこから吐き出させ  
れば良いのに労働者階級の主体的な力  
が脆弱なのが原因なのです。そこが根  
本問題です。

**社会主義は語るものではなく**

**日常の実践的活動と結びつく**

FKIIよろしいですか、この章をレポ  
ートしながら思ったのですが、非正規  
労働者が多くなり、低所得者層が増え、  
シングルマザーも増えるなどの社会現  
象が出て、小池都知事や保守層の中  
にも、日本の社会保障制度は疲弊してい  
る。作り変える必要があるとまことし  
やかに言い出す者たちが増え、近年は  
保守層だけでなく、社会主義を標榜し  
ている政党内でも、「ベーシックイン  
カム」や「普遍主義」など、をもっと  
もらしく扱っています。が、階級闘争を

闘わずして「平等主義」を唱えても  
見向きもされません。

TKII社会主義は語るものではなく、  
労働者階級が社会発展の法則を正しく  
認識し、自らの任務は何か掴み、それ  
に基づいて実践し、平和革命を実現す  
ることだと思えます。「平和革命」に  
ついては説明が必要です。平和革命論  
は先進国の一定程度発展した憲法・議  
会制度を足場にして、圧倒的なプロレ  
タリア独裁の可能性を議会の中にも大  
衆運動の中にも高めることで実現され  
るのです。そのような意味で職場抵抗  
闘争を基礎とした護憲運動、改憲を許  
さない取り組みが大事だと言えます。  
司会II3カ月かけて、第一章「空想的  
社会主義」を学習してきました。

次回からは、第二章「弁証法的唯物  
論」に入ります。ものは常に変化し発  
展することを学びます。この自然や社  
会の発展法則を知るために、歴史的、  
論理的に考える方法を体得しましょう。